

2024年3月期 第3四半期
(2023年4月~2023年12月)

決算補足説明資料

2024年2月9日

 **東洋合成工業株式会社**

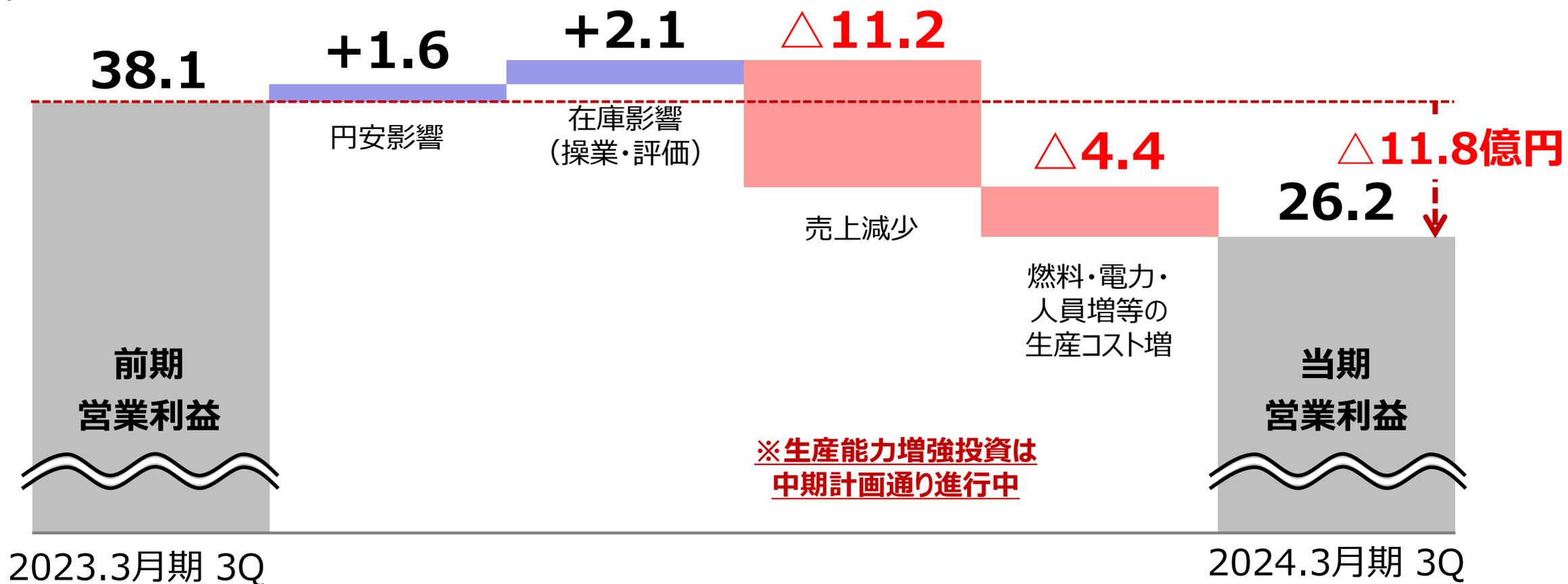
- 売上高は、期初からの半導体需要の低迷とサプライチェーン上の在庫調整の影響を受け、230.9億円（前年同期比△10%）。
- 営業利益は、需要減退に応じたコスト抑制に取り組んだものの、売上高減少により26.2億円（同△31%）。
- 来期以降の中長期の市場拡大に向け、生産能力増強投資を継続。

	2023.3月期		2024.3月期		前年同期比	
	(億円)	3Q累計 実績値	3Q累計 実績値	3Q累計 実績値	増減額	増減率
売上高		257.4	230.9		△26.5	△10%
営業利益		38.1	26.2		△11.8	△31%
経常利益		40.2	25.2		△14.9	△37%
四半期純利益		27.4	17.2		△10.2	△37%
期中平均為替レート		¥134/\$	¥143/\$			

営業利益 前年同期比 増減要因

- 売上減少による利益の低下に対し、期初計画の費用上昇の抑制、為替、在庫評価益の発生等により、営業利益26.2億円（通期業績予想値超過）。

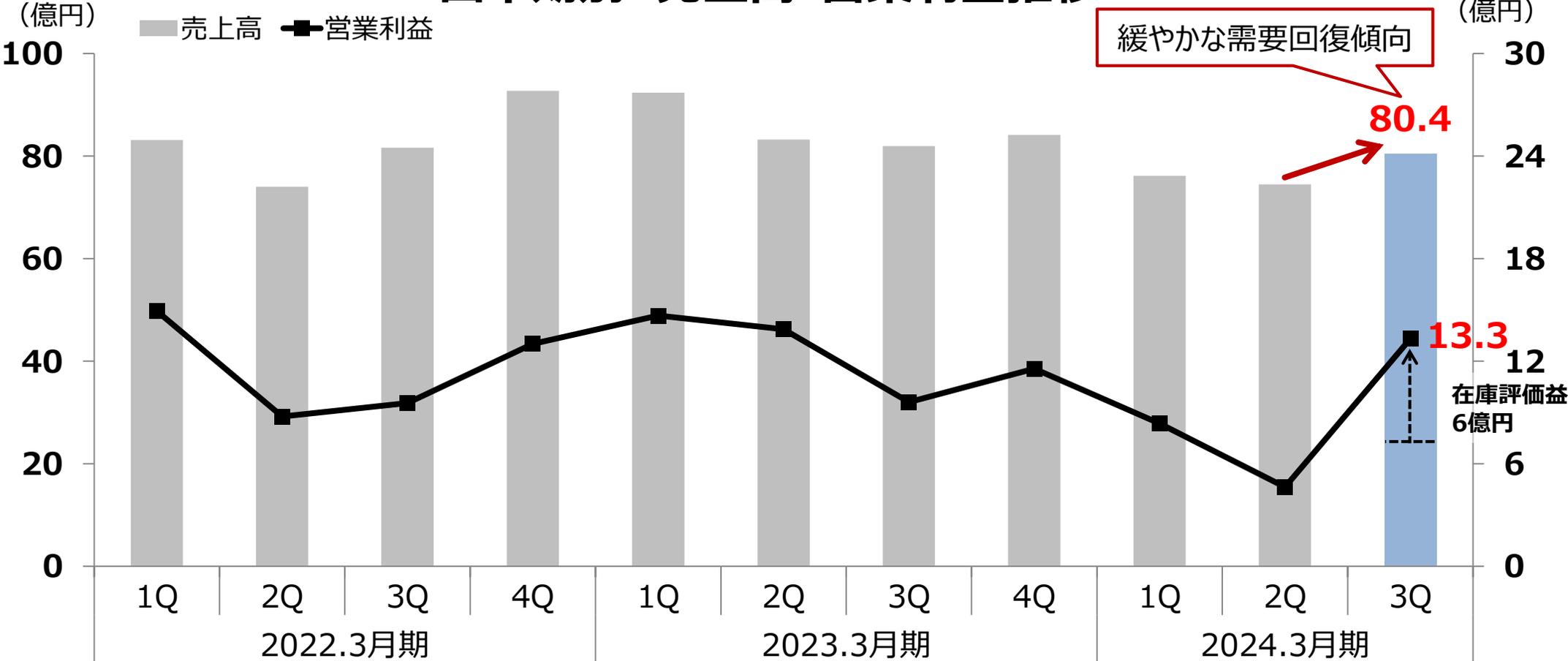
(億円)



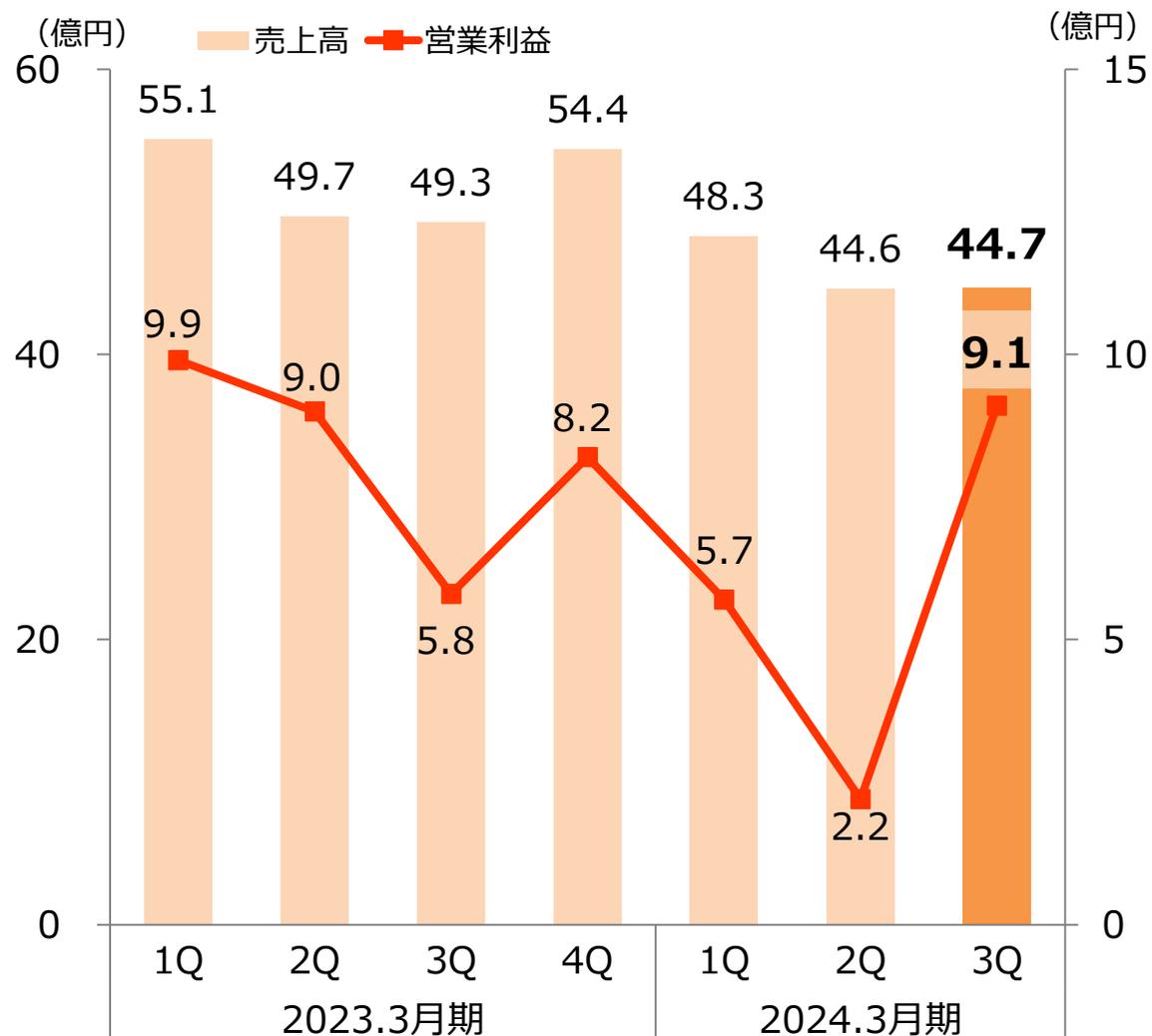
四半期別 売上高・営業利益推移

- 需要回復は緩やかながらも、サプライチェーン上の在庫調整に底打ち感が見られ前四半期比では売上増加。
- 3Qは、感光材を中心に原価上昇による在庫評価益が発生（一過性）。

四半期別 売上高・営業利益推移



売上高・営業利益



3Q累計売上高：137.7億円

(前年同期比△16.3億円、△11%)

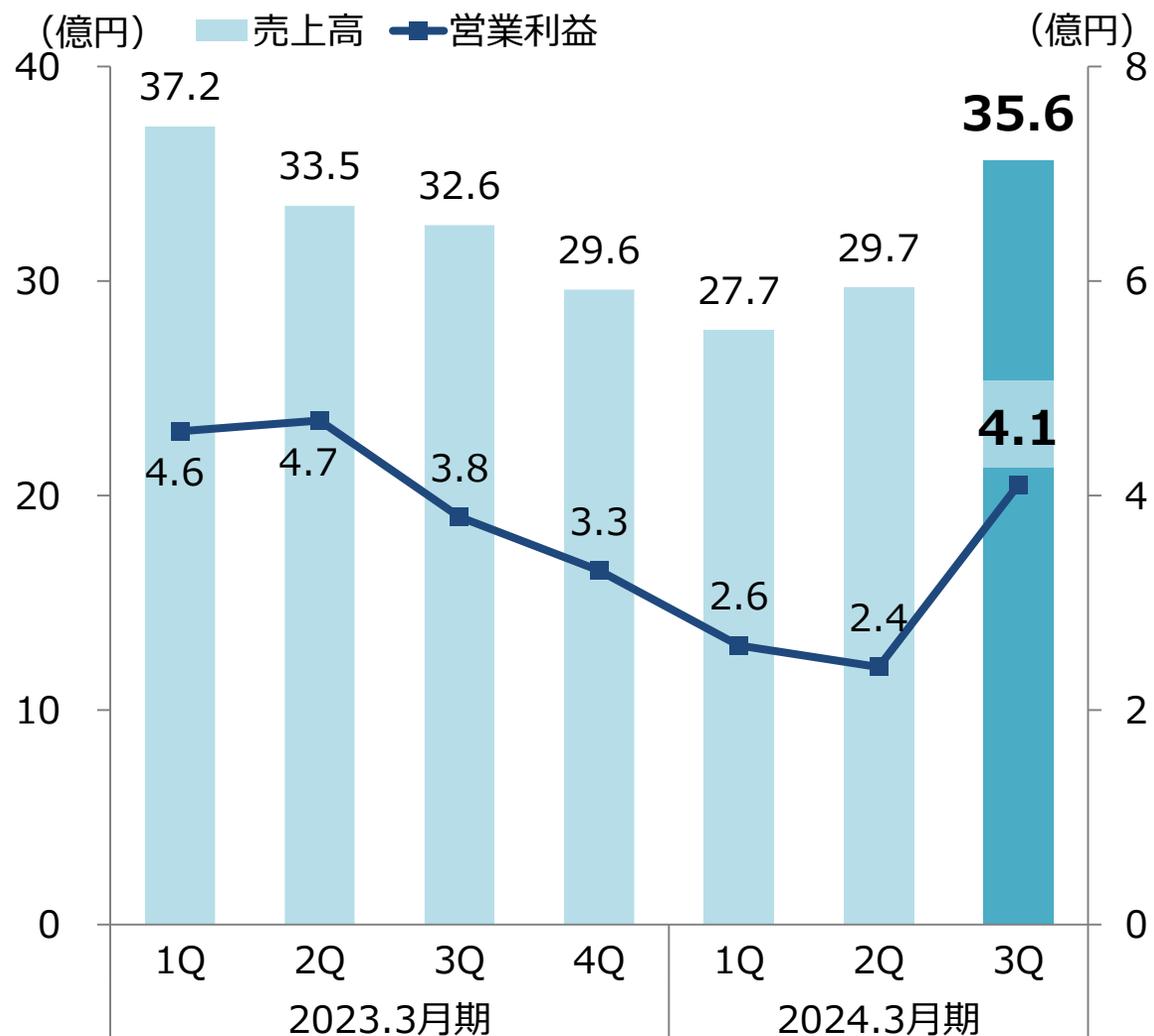
- 半導体向け材料は、在庫調整に目途が立ち始めたものの、需要回復傾向は緩やかであり、需要低迷が継続。
- ディ스플레이向け材料は、やや軟調ながらも一定レベルの需要を維持。

3Q累計営業利益：17.1億円

(同△7.7億円、△31%)

- 累計では、先端半導体向け材料の売上減少により減益。
- 3Q単体は原価上昇による在庫評価益が発生。
- **需要拡大期を見据え、計画通りに生産能力増強を継続。**

売上高・営業利益



3Q累計売上高：93.2億円

(前年同期比△10.1億円、△10%)

- 電子材料関連は、在庫調整からの回復が継続し、3Q単体では前年同期比を超過。
- 香料材料関連は、トイレタリー向け香料の需要が回復し、累計でも前年同期比を超過。
- ロジスティック関連は、荷動きの低迷が継続しているものの、タンク契約率は高水準で推移。

3Q累計営業利益：9.1億円

(同△4.0億円、△31%)

- 3Q単体は、高純度溶剤・香料材料の売上増と原価上昇による在庫評価益により増益。
- 累計では、上半期の売上減少影響により減益。

2024年3月期 第3四半期 損益計算書

- 売上高は、期初からの半導体需要の低迷とサプライチェーン上の在庫調整の影響を受け、230.9億円（前年同期比△10%）。
- 売上総利益は、売上減に対応したコスト抑制や原価上昇による在庫評価益の発生があったものの、半導体の在庫調整による高付加価値品の売上減少により56.5億円（同△18%）。

(億円)	2023.3月期 3Q累計	2024.3月期 3Q累計	増減額	増減率
売上高	257.4	230.9	△ 26.5	△10%
売上原価	188.2	174.3	△ 13.8	△7%
売上総利益	69.1	56.5	△ 12.6	△18%
販売管理費	31.0	30.2	△ 0.7	△3%
営業利益	38.1	26.2	△ 11.8	△31%
営業外収益	3.3	1.1	△ 2.1	△65%
営業外費用	1.2	2.1	+0.9	+80%
経常利益	40.2	25.2	△ 14.9	△37%
特別損益	△ 0.5	△ 0.2	+0.3	
税引前当期純利益	39.6	25.0	△ 14.6	△37%
法人税等合計	12.2	7.7	△ 4.4	△36%
当期純利益	27.4	17.2	△ 10.2	△37%

← 前期：為替差益2.6億円
 今期：為替差損1.1億円

2024年3月期 第3四半期 貸借対照表

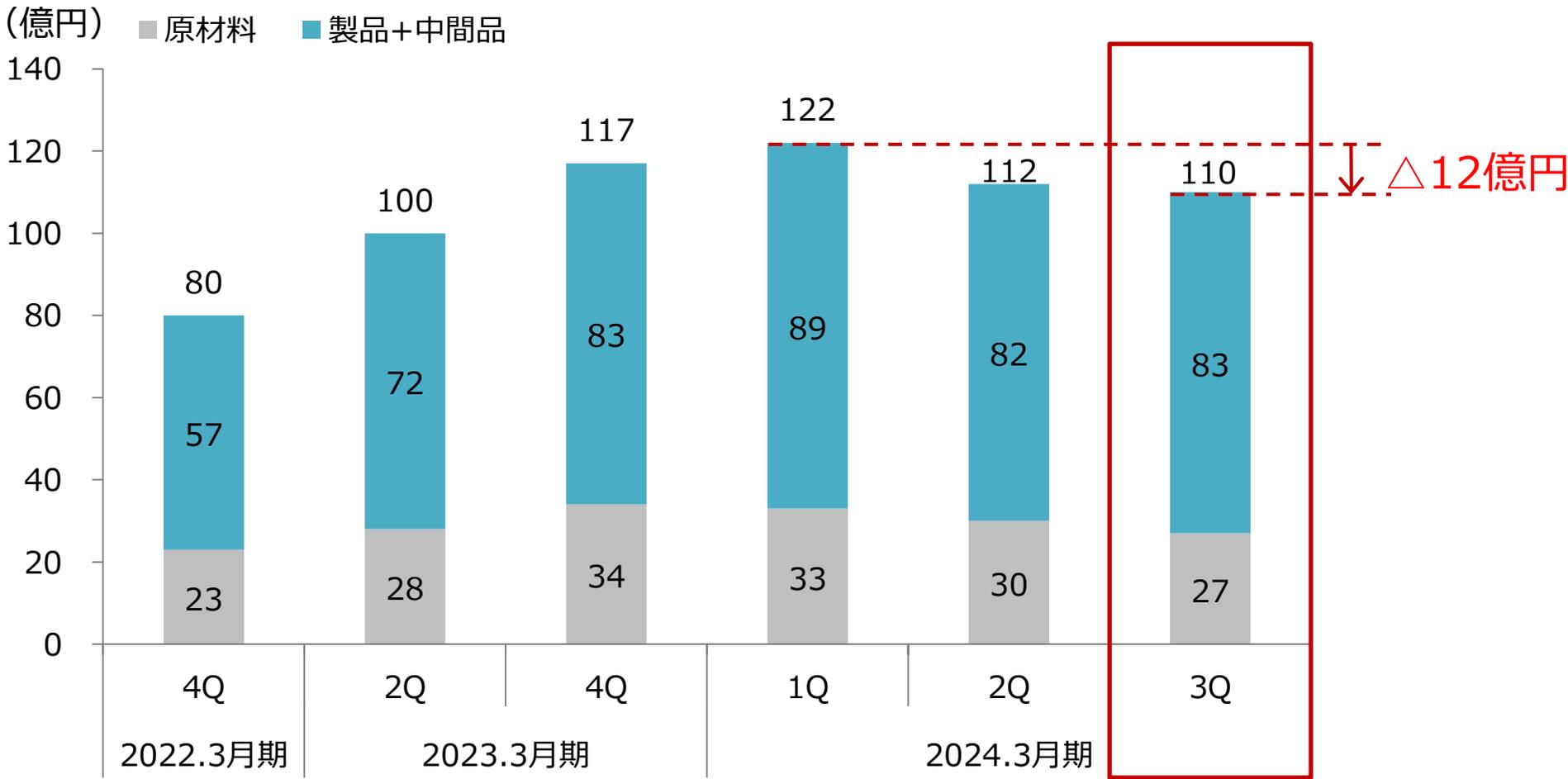
- 棚卸資産 : Δ 7.0億円 需要減退に合わせ在庫を削減。
- 仕入債務 : Δ 17.6億円 需要減退に合わせ原材料の購入を削減。
- 有形固定資産 : +52.2億円 需要回復期に備え、生産能力増強の投資を継続。
- 借入金 : +32.8億円 設備投資資金の増加。
- 株主資本 : +14.0億円 純利益の増加。

(億円)	2023.3月末	2023.12月末	増減額		(億円)	2023.3月末	2023.12月末	増減額
流動資産	216.8	218.7	+1.8	負債	314.6	357.3	+42.7	
現金預金	32.5	35.2	+2.7	仕入債務	49.4	31.8	Δ 17.6	
売上債権	59.1	61.0	+1.9	借入金	178.9	211.7	+32.8	
棚卸資産	117.5	110.4	Δ 7.0	その他	86.2	113.7	+27.5	
その他	7.6	11.9	+4.2					
固定資産	294.2	349.6	+55.3	純資産	196.4	210.9	+14.5	
有形固定資産	276.3	328.6	+52.2	株主資本	195.5	209.6	+14.0	
無形固定資産	6.0	10.2	+4.2	評価・換算差額等	0.8	1.3	+0.4	
投資・その他	11.7	10.6	Δ 1.0					
資産合計	511.0	568.3	+57.2	負債・純資産合計	511.0	568.3	+57.2	

棚卸資産の状況

- 需要減退に合わせ、棚卸資産を削減。
- 棚卸資産は、2023.3月期末比で7億円減少、2024.3月期1Q比で12億円減少。

棚卸資産の推移



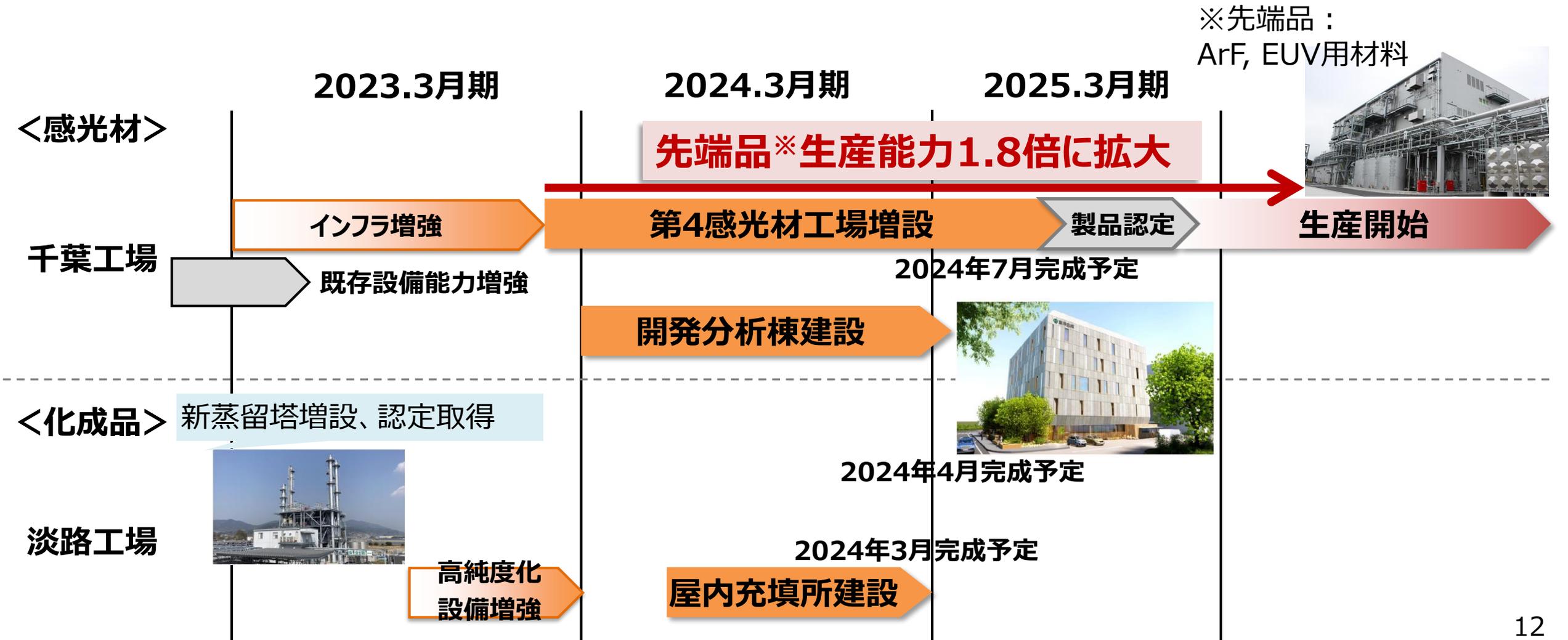
2024年3月期 業績予想値と進捗状況

- 業績予想値に対する進捗率は、売上高75%、利益面は業績予想値を超過。
- 3Qは、需要減退に伴い操業を落とした結果、原価が上昇するとともに在庫評価益が発生。
- 4Qは、在庫評価益も解消され、費用増加も見込まれることから通期業績予想値は据え置き。

	2024.3月期 通期業績予想値 (億円)	2024.3月期 3Q累計 実績値	進捗率
売上高	310.0	230.9	75%
営業利益	26.0	26.2	101%
経常利益	25.0	25.2	101%
当期（四半期）純利益	16.0	17.2	108%
為替レート <small>※11/10修正時点</small>	<small>※</small> ¥140/\$	¥143/\$	

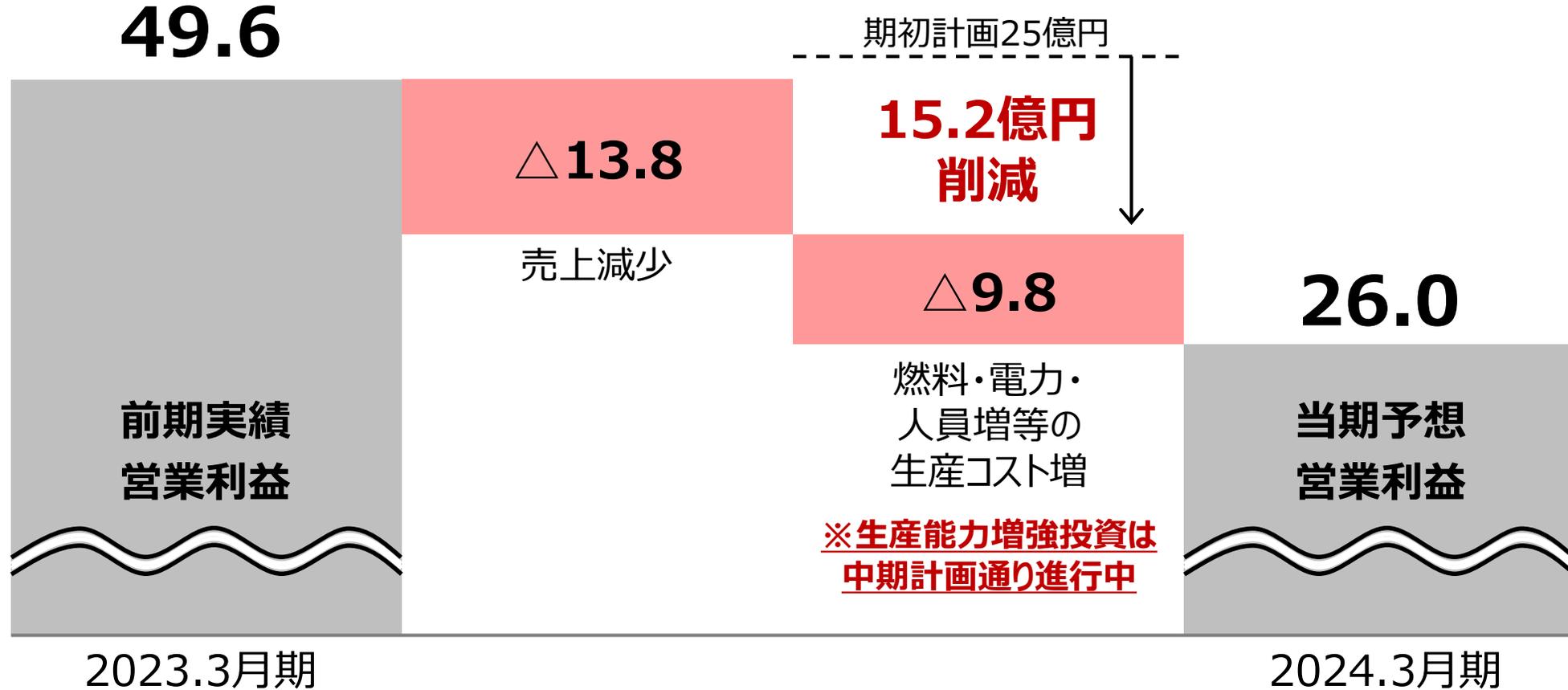
補足資料

- 半導体市場は2024年以降、成長へ回帰。
- 需要拡大に向け、順調に感光材製造設備、開発分析棟、高純度溶剤設備を増設工事が進行中。



- 下期も売上減に対応したコスト削減を継続し、利益を確保。

(億円)



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

 東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。